

平成28年度法人事業計画(案)

社会福祉法人 幸輝会

・ 法人の使命

人間尊重の基本理念の下、地域社会に根ざした福祉活動を通じて関係性の維持、再構築を図り、地域の基幹的支援施設としての役割を果たします。

・ 現段階の総括と課題、問題点

現在は社会福祉法人制度改革の真っ只中にあり、その主旨は社会福祉法人の公益性・非営利性を確保する観点から制度を見直し、国民に対する説明責任を果たし、地域社会に貢献する法人の在り方を徹底していく方向性となっています。理事・評議員・監事の経営組織の在り方についても大きく変更されます。これらの制度改革に対応すべく、今期中の手続きを経て、来期以降の法人運営が円滑にいく様、確実に準備を進めていくこととなります。幸輝会が持つ機能と役割（専門性）を十分に発揮していくためには、引き続き厳しい状況下にある人材確保に重点を置いていく必要があります。「人財」という経営資源をいかに確保・育成・定着していけるかが今後の法人経営を大きく左右する最重要課題です。職員一人一人が社会福祉援助者としての使命を再認識し、基本となる理念に立ち返って、支援の輪を広げ、精一杯関わり携わっていくことが重要であると考えます。

・ 今年度法人の基本方針

社会福祉法人幸輝会は高い公益性と倫理性を旨として、社会の負託に応えるとともに、福祉推進の主導的役割を果たします

・ 今年度法人の全体目標

「多様な生活課題や福祉ニーズに対して、柔軟かつ主体的に取り組めます」

・ 具体的数値目標（事業所単位）

- ◇ 経常収支差額比率： 5 ± 1.0%（国府市場、美作）、4 ± 1.0%（乙多見）
- ◇ 事業活動人件費率： 61 ± 1.0%
- ◇ 事業活動経費率： 31 ± 1.0%

・ 具体的行動目標

- 法人組織のガバナンス強化
- コンプライアンスの徹底
- 情報開示と説明責任の徹底（透明性の向上）
- 人材マネジメント（人財の確保と育成、定着化）
- 地域社会との連携強化（公益的な取組みの実践）
- ワークライフバランスの推進
- 財務規律の安定強化

平成28年度事業計画（案）

特別養護老人ホーム幸輝園「介護老人福祉施設」
「短期入所生活介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

- ・ 終末期ケアの件数が年々増加傾向にあるが、利用者とその家族の思いを十分に受け止め満足いただける内容であったかどうか、そこに係わる職員が各職種の立場から見直し次のケアに生かしていかななくてはならない。その為にも平素から利用者が何を感じ、家族が何を希望しておられるのかをしっかりと受け止め、人生の最期の時を平穩に迎えていただけるよう、全職種が協働で支援していく必要がある。
- ・ 利用者とその家族にとって生活維持が困難となった時の最終的な受け皿として特養のサービスが期待されており、ニーズに沿った柔軟な対応が求められている。緊急を要する場合の受け入れについても、サービス間の連携を密に行いながら施設・在宅の垣根を超えた最大限の協力体制が求められている。
- ・ 利用者の重度化傾向はさらに進み、医療依存度の高い利用者も増えて、それらの対応に現場の負担も増大している。より高度な知識と技術が求められていることから、十分な研修機会を確保することでケアの質の確保を図っていききたい。
- ・ 特養には地域福祉の中心としての役割が期待されており、地域社会のあらゆる福祉ニーズに応えていかななくてはならない。職員一人一人がその自覚を持って、業務にあたっていく必要がある。サービスの質の向上は勿論、事故防止・環境整備・防災危機管理や食の向上等あらゆるテーマに全職員が一丸となって取り組んでいかななくてはならない。

《サービス基本方針》

- ・ 福祉のプロとしての気概を持って、利用者の生活を多面的に捉えてサービスを構築していきます。
- ・ 地域のセーフティーネットとしての役割を果たすべく、地域の高齢者が抱える諸課題を解決していける様、緊急時にも素早く柔軟に対応していきます。
- ・ 厨房内の衛生面を強化し、安心安全で楽しみのある食事を提供します。
- ・ 研修機会を通して職員全体のスキルアップを図り、専門職としての自信と誇りを持って業務に当たれるよう常に資質向上に努めます。

《行動目標》

『心の繋がるサービスで、地域に貢献できる施設に成長します!』

《数値目標》

- ・ 長期平均稼働率 98%
- ・ 短期平均稼働率 75%

平成28年度事業計画（案）

高島デイサービスセンター「通所介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

- ・ 利用者の重度化傾向もあって、より高度な介護技術や医療知識等を求められる場面もあり、職員の研修機会や資質向上が重要である。
- ・ 新規の利用も入ってきているものの、それ以上に長期入院・他施設入所・他界される方等が多く、安定した利用者確保が厳しい状況になっている。現在利用中の方々の満足度をさらに向上していくことで、新たな利用者獲得に結び付けていきたい。
- ・ 通所介護事業所が介護度、認知症自立度のより重度な方を受け入れていくためには、ケアマネージャーや他の介護サービスとの連携が必須となる。家族とのコミュニケーションも密にし、利用者の生活全般を支援していく体制の一翼を担っているという職員の意識改革が必要である。

《サービス基本方針》

- ・ 認知症の方には、現実の何気ない情報を提供し繰り返し確認していくことで、認知症の見当識障害の進行防止と改善を目指していきます。
- ・ 利用者一人一人のニーズをしっかりと受け止め、利用することで得られる効果を実感して頂けるよう、各種プログラムの開発を行います。利用中の活動量を増やして体内の循環を良くし、体幹を鍛えるからだ作りや細かな体調把握などを行っていきます。
- ・ 口腔ケアでは嚥下状態を良く観察し、食事を美味しく楽しく召し上がっていただけるよう継続支援していきます。
- ・ 年間研修計画に基づいて職員の資質向上を図り、職員間のチームワークを何より大切にサービス提供にあたります。

《行動目標》

『初心に立ち返り、気配りのサービスで利用者の満足度を向上します!』

《数値目標》

- ・ 1日平均利用者数 26名以上

平成28年度事業計画（案）

幸輝園ヘルパーステーション「訪問介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

- ・ 利用者個々のケアプランを全職員が十分理解し、情報の共有化を図るためにも報告・連絡・相談を密にしていく必要がある。
- ・ 利用者がその人らしい生活を維持していける様、その方のニーズをしっかりと共有し、介護のプロとしての関わりを行っていく。
- ・ 住み慣れた自宅での暮らしが維持継続していける様、利用者の思いに寄り添い、在宅高齢者の生活全般を支援し多様化するニーズにも対応していくことが使命であり、職員の介護技術や専門知識の向上を図っていく必要がある。
- ・ 情報提供を密に行い、本人はもとより家族やケアマネからも信頼される事業所を目指していく。

《サービス基本方針》

- ・ 利用者の在宅生活全般を支援していく観点から、ケアマネ等の関係機関とも連携を図り、家族との連絡体制も充実させる。
- ・ 報連相を徹底し職員間のチームワークを重視して、技術や知識のレベルアップを図り、質の高いサービス提供を行う。
- ・ 年間研修計画に基づき、職員の資質向上を図る。

《行動目標》

『心に寄り添い、安心の笑顔で返してもらえる支援を行います!』

《数値目標》

月延べ提供時間 230時間以上

平成28年度事業計画（案）

さつき園「地域密着型介護老人福祉施設生活介護」

「短期入所生活介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

平成27年度は、長期入居、短期入所生活介護、前年度を下回る稼働率になりました。入院、退居者の増加やロングショート利用者の見直し等が主な原因としてあげられます。

昨年度に続き「科学的介護」の実践を継続して行ってきたことにより、日中のオシメ使用の減少、自然排便者の増加など様々な成果がみられました。また、今年度より始めた口腔機能維持の取り組みは、「科学的介護」の実践とも相乗して、口腔機能と口腔ケアの重要性を再認識し、知識や技術の向上に大きな成果を得られました。また、摂食嚥下機能維持にも積極的に取り組み、胃瘻の方や嚥下機能障害の重い方の経口摂取の継続と『常食化』を進めることができています。また、職員にとってもこうした実践に取り組む中で、入居者の今の状態が少しでも向上するために一人一人の方にどんな可能性があるか、現状に留まらず出来ることを見つけ出そうとする視点や意識を持つことが出来てきたように思いますし、入居者が確実に変化されていることを実感しているところです。

入居者に自分らしい生活を送って頂く上で生活機能の維持と共に重要となるのが認知症の予防・認知症状を緩和することが重要です。今後の認知症ケアについては職員の専門性を高めること、統一したケアの提供が課題になると思います。

《サービス基本方針》

- ・入居者の自立支援に向けて「科学的介護」の実践を継続し、入居者のできる可能性を広げて行きます。
- ・口腔機能維持・摂食機能維持（経口維持・経口移行）について、継続して多職種協働で取り組みます。
- ・認知症ケアに関する知識、技術を深め、入居者、利用者にあった統一したケアの提供の徹底を行います。空間作りなどケア以外にも目を向け、穏やかに過ごして頂ける様な環境を作っていきます。

《行動目標》

「自分の思う暮らしができる。」

「その日、その時を大切にし、笑顔があふれるユニットに」

～入居者、利用者、ご家族の思いに寄り添ったケアの実現～

《数値目標》

長期入居 96%

短期入所 82%

平成28年度事業計画（案）

かたらい「小規模多機能居宅介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

- ・ ご利用者やご家族のニーズに応え、一人一人の求めている生活を支援していくことを目標にご利用者に寄り添い、心を通じ合わせたサービスを行っています。みんな同じサービスではなく個々の個性や生活習慣に合わせたサービスを取り込み、できる力を最大限に生かすことで、自分の役割や達成感を感じてもらいたいと思います。
- ・ 住み慣れた地域での生活が、継続できるように地域資源や趣味活動に目を向け取り組んできましたが、気持ちとは裏腹に「通えなくなった」「年を取ったからたいぎな」「できんようになったなあ」との声を聴くことも少なくありません。今までのつながりを閉ざさない為にもどう取り組んでいくかを考え、実行に移していくことが今後の課題となります。
- ・ 「働きやすい職場」「やりがいのある職場」を目指してチームで取り組んでいる。今後も職場環境を整えていくことで心にゆとりを持ち、働きやすい職場を目指します。

《サービス基本方針》

- ・ 一人ひとりの個別性を大切に、「その人が求めている」ニーズに応えられるよう、状況や要望に応じたサービスに努めます。
- ・ ご利用者一人ひとりの思いを受け入れ、「～したい」の実現に向けて、できる力を広げていきます。
- ・ 個々の地域活動を把握し、サロンや老人会への参加、町内活動、個別の趣味の教室など今まで付き合いしてきた関係を閉ざさないように支援いたします。

《行動目標》

『ご利用者の可能性を広げよう』

～したいことに取り組み、できることを見つけよう～

《数値目標》

登録利用者率 86%（平均登録人数25名）

平成28年度事業計画（案）

事業所名 幸輝園デイサービス「通所介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

- ・プログラムを充実させることで役割や生きがいを感じられるようになり個々の活性化が見られ活気あるデイサービスになっていると感じています。しかし地域住民との交流は乏しくデイサービスでの活動状況を知って貰えてない状況です。今後は地域住民との交流を深め住み慣れた地域での生活が安心して継続できる事を知って頂き頼れる事業所を目指したいと思っています。
- ・職員全体の専門的スキルが低く気付きが足りないため、職員が統一したケアが出来ていなく医療頻度の高い利用者のサービス提供の継続できていない。また複数回の利用者数が多く休まれた際には稼働率が下がるため利用者の利用回数に配慮が必要と思います。
- ・事故に繋がるヒヤリの発見が少なく事故に直結している。日々の業務の中でのヒヤリを職員全体で見直して事故防止に努めていきます。

《サービス基本方針》

- ・その人らしさを大切に個々に合わせたサービス提供致します。
- ・利用者が安心、安全に一日を過ごせるように事故防止に努めます。
- ・医療頻度の高い利用者の在宅生活が少しでも継続できるよう多種職の連携を図ります。
- ・地域交流を深め地域の方から信頼されるように努めます。

《行動目標》

「地域交流を深め信頼され求められるデイサービスを目指す」

《数値目標》

サービス利用率 80%

平成28年度事業計画（案）

幸輝園ケアプランセンター「居宅介護支援」

《現状の総括及び課題と問題点》

4月からの介護報酬の改正でケアマネジメントにも大きな改定がありました。その中でも大きく影響する特定事業所集中減算の改正により、全種類のサービスが対象となり、さらに80%以上の集中率で減算対象となることから法人へのプラン数が減少しています。現状では減算を避けるために色々な取り組みをして苦慮しています。事業所内の利用者高齢化率も高く80歳以上が80%を超えているため入院や死亡等で件数も安定していません。また介護支援専門員によるマネジメント力の差もあり新規利用者数も増えていない状況です。今年度も4名体制で特定事業所加算Ⅱを算定し質の高いケアマネジメントを行いながら、継続して利用者や家族が安心して在宅生活が継続できるように支援します。

《サービス基本方針》

- ・自立支援の理念においてケアマネジメントを実施します。
- ・信頼関係の構築・情報管理の徹底を行います。
- ・職員の資質向上に努めます。
- ・医療との連絡・連携に努めます。
- ・ケアマネ会議や地域ケア会議で課題を検討し、在宅生活の限界点を高めます。

《行動目標》

- ・多様なニーズに応じ、安心して在宅生活を送られるよう支援していきます。

《数値目標》

- | | | |
|------|-----------|-------|
| ・要介護 | ケアプラン作成件数 | 130 件 |
| ・要支援 | ケアプラン作成件数 | 38 件 |

平成28年度事業計画（案）

かがやき「ケアハウス」

《現状の総括及び課題と問題点》

入居当初は、自立できていた入居者も現在では身体機能の低下、認知症の発症等により在宅福祉サービスを活用しながら何とか生活を維持しています。

今後も入居者が認知症の発症や悪化を防ぐために、また転倒等により身体機能の低下を防ぐためには、現在行っている支援（プログラム）を継続するとともに、他にどのような支援（プログラム）を提供していくか検討が必要です。

《サービス基本方針》

- ・認知症入居者へ実施している学習・回想法を改め週に1回喫茶を設け全体回想法を行い認知症入居者及び自立した入居者の認知症発症や重度化予防に取り組みます。
- ・入居者の転倒防止や身体機能の低下を予防しADLが維持できるような「転倒予防体操・介護予防運動」をプログラムとし、かがやきで提供いたします。
- ・「かがやき」の地域貢献活動の一環として精神障害者、知的障害者、身体障害者、虐待被害者等の社会的保護の必要な人を受け入れます。

《行動目標》

「入居者が自立できるような暖かい支援を目指します！」
～他職種、ご家族との連携を～

《数値目標》

- ・定員29名を維持する。（月初在籍率100%）

平成28年度事業計画（案）

特別養護老人ホームみまさか園「介護老人福祉施設」
「短期入所生活介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

昨年は、それぞれの人生に寄り添えるケアを提供したいとサービス方針の下、残存機能の維持や一人一人の状態に合ったケアに取り組んで来ました。

ご利用者の残存機能を使った青山先生の介護技術を勉強して来ましたが、良い介護技術だと認識はしながらも職員間の温度差の違い等色々な問題があり十分浸透しない難しさを痛感しました。しかし、ご利用者の状態に合ったケアは、ポジショニングや食事、排泄など工夫を行っています。入所してからの年数が長い方は重度化傾向にあり看取りの前段階の方も少なくありません。今後も、多様な生活ニーズに柔軟な対応が出来るケアを提供したいと考えます。

又、職員の人材確保と育成、モチベーションのアップについては働きやすい勤務体制やスキルアップに向けて施設としての協力援助にも取り組んで来た結果、職員のワーク・ライフ・バランスの推進にも繋がりました。

そして、福祉避難所としての初めての試みとして、地域の方にも協力してもらい防災訓練を行う事が出来ました。少なからず地域の皆様に福祉避難所としてのアピールが出来た半面、新たに課題も解かりました。さらに、今年度は当法人が地域とのパイプ役として受け入れ態勢を整え要望に応えられる施設として確立していきたいと思ひます。

《サービス基本方針》

「多様なニーズに対応出来るケアを提供致します。」

「地域における福祉施設としての役割を果たします。」

《行動目標》

- ① 心も身体も元気に穏やかな生活を送って頂けるケアに取り組めます。
- ② 季節を感じられる企画とリラックス出来る空間造りを行います。
- ③ 災害時の受け入れ態勢の確立を図ります。

《数値目標》

- ・ 長期入所利用率 96%
- ・ 短期入所利用率 80%

平成28年度事業計画（案）

みまさかデイサービスセンター「認知症対応型通所介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

27年度は新たな介護報酬引き下げに伴い、例年にも増して苦しい年になるかと考えられたが、引き下げが好転し現在ご利用の方々の利用の幅を広げることが可能となり良い結果に繋がった。

また“身体状況や体調が以前より悪い状態になっても今まで通り利用できるなら”“状態が悪いときこそ”のニーズに応え、より充実したケアでご家族の負担軽減や利用者の状態に合わせた援助ができ、“自宅では心配だが、みまデイに行っているから大丈夫”とやり過ぎないしかしプロとして求められているケア、家族力を見極めながらのサービスを提供することができた。

今年度、医療を必要としていない在宅利用者をいかに最後まで支援していくことができるかが課題であり、看護職を含めスタッフ全体で方針の理解、専門性のスキルアップや連携を図り、小規模ならではの行き届いた安心したケアやサービスが提供できる環境を整える必要があると考える。

《サービス基本方針》

アンケートを実施しニーズを把握、限界まで在宅での生活を支援

在宅サービスの本当の担い手となる

《行動目標》

「具体的なニーズに対して専門的なケア・サービスを実践する」

- ・ アンケートを前期・後期で内容を変えて実施し、(具体的に答えやすいように作成)
- ・ アンケートを基に生活の中で行えるリハビリを実施し毎月末に評価する
- ・ スターティングノートを取り入れ、終末期までも視野に入れながら日々の支援方法を検討、実施する(状態の変化や定期的にご家族やご本人と話をし理解を深める)

《数値目標》

目標利用率 60%

平成28年度事業計画（案）

ゆうゆうの里デイサービスセンター「通所介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

昨年度から中重度や認知症など「様々なニーズに対応できる事業所」を目標に1年間事業所の職員が一丸となり「チーム」として事業目標に取り組むことができた。基本方針の中心として挙げていた事業所内研修における個々のレベルアップと事業所としてのサービスの質均一化については、各専門職が研修担当を行い、他の職種への指導や専門職としての視点からのアドバイスにより職員個々の資質向上、自分自身の知識・技術の振り返りに繋がった。そして共に、職員間の良好な関係性を再構築する良い機会となり、チームとして明るく楽しい「良い雰囲気」が日常の業務や利用者への対応にもよい効果をもたらしている。また、「利用者にいかに楽しんでいただくか？」ということについて職員間で考え、デイに通うことが利用者の「ニーズ」となるよう年間を通じて利用者の望むイベントを計画・実施し、家にはない笑いと楽しさを提供することができ、一定の利用率が確保できたことは事業所としての自信に繋がった。来年度は昨年度に引き続き「様々なニーズに対応できる事業所」という基本方針を継続し、重度・認知症など様々な利用者、そして新しい総合支援事業も見据え、上質な介護サービスの提供と地域で1番楽しい笑いの絶えない通所介護事業所としてチーム一丸となって取り組み、利用率の維持・向上を図っていきたい。

《サービス基本方針》

認知症、中重度、新しい総合支援事業など様々なニーズに対応でき、利用者に笑いや楽しさを提供し、デイに通うことが利用者の「ニーズ」となるようなサービス提供を行います。

《行動目標》

- 年間を通じて利用者、職員が一緒に楽しめるイベントの企画と実施を行い、事業所として笑顔や笑いの絶えないサービス提供を行います。
- プログラムによる機能訓練を継続し、楽しみながら残存機能を十分に生かせるサービス提供を行います。
- 様々なニーズに対応できるよう、各専門職が主体となって事業所内研修を開催し、職員個々の資質向上とサービスの均一化
- 地域包括ケアシステムを見据え、中重度の利用者を在宅介護されている家族に対して介護指導を行い、在宅で一日でも長く生活ができるよう支援します。

《数値目標》 利用率 85%確保

平成28年度事業計画（案）

ゆうゆうの里ヘルパーセンター「訪問介護」

《現状の総括及び課題の問題点》

27年度行動目標にしていたキャラバン・メイト養成講座への全員参加は実現出来ませんでしたが、認知症サポーター養成講座への参加が出来、資質向上に繋がる取り組みが出来ました。利用者の体調の変化の発見に努め、他事業所、ケアマネージャーとの連携を取りながら柔軟な対応が出来ました。

独居の利用者が増え、体調を崩されると入院、施設入所に繋がり利用者数の減少がみられます。住み慣れたご自宅でその人らしい生活が続けられるように体調管理、転倒予防をしていくように利用者、家族への意識付けをすると共に引き続き支援を行います。

新規の利用者数が減少している中、他の事業所と比較される事も多く選んで頂ける事業所になるよう一層の努力が必要になります。また、予防訪問の29年度総合事業への移行に向け、対応できるよう情報収集に努めます。

《サービス基本方針》

ケアの均一化を図り、質の高いサービスを提供することで地域に必要とされる事業所を目指します。

《行動目標》

- ・優れた技術と意識・質の向上を図る為、月1回の研修を行います。
- ・キャラバン・メイト養成講座への全員参加を目指します。
- ・利用者との対話の時間を増やします。
- ・離れて暮している家族へ情報発信の機会を増やします。

《数値目標》

実利用者数：75名

平成28年度事業計画（案）

ゆうゆうの里ケアプランセンター

《現状の総括及び課題と問題点》

新規利用者の依頼は月平均2名と昨年同様の状況であったが担当していた利用者は在宅生活の限界にて入院、施設入所される方が増し利用者が定着していない現状です。27年度の報酬改定により居宅基本報酬単価が多少増えている一方で認知症加算、独居加算が基本報酬へ包括化され居宅としての収入減となっています。今後、利用者が在宅での生活が継続でき地域で暮らすことが出来るよう地域包括ケアを提供する体制の構築が必要であり、介護支援専門員は利用者、家族のニーズと多様なサービスを結びつけるコーディネーターおよびマネジメントの役割について、これまで以上に高い水準で継続的に担っていくことが今後の課題となる。

《サービス基本方針》

- ・ 自立支援の理念においてケアマネジメントを実施する
- ・ 信頼関係の構築・情報管理の徹底に努める
- ・ 関係機関との綿密な連携を図り総合的なサービスの提供に努める
- ・ 職員の資質の向上とメンタルヘルスケアを行なう

《行動目標》

「地域で安心して暮らせるサポート体制の構築」

- ・ 地域に出向き住民との信頼関係を築き地域の課題を把握する
- ・ 週1回ケアマネ会議を行い業務内容の確認、情報の共有を行う
- ・ 多職種連携の充実の為地域ケア会議に参加する
- ・ 各種勉強会、研修に参加し質的向上を図る

《数値目標》

要支援要介護者人数：100名

平成28年度事業計画（案）

さいわい「ケアハウス」

《現状の総括及び課題と問題点》

27年度はコミュニケーションをとる中で、個々に興味のあることを準備し、自己選択の出来るプログラムを提供し、心身の健康の維持と生活意欲の向上に取り組んでまいりました。さいわいが安心して過ごせる場となるように、入居者さんの皆さんの声を聞きながら行事を進めてきました。現在さいわいでは、施設内の草刈り、掃除など自発的に行動を起こす入居者が増え、自分の元より、できない人への手助けなど、入居者の間に今までになかった自主的な活動や、支え合いの気持の意識が自然と芽生えて、さいわいというコミュニティの中でそれぞれの役割ができ活気ある生活が見えるようになりました。今後も、できる事は自分で行なって頂き、できないところを支援、お互いに入居者が協力しながら自発的な気持ちを大事にして、生き生きと暮らせて自立した生活を目指したいと思います。

《サービス基本方針》

- ・ 体調不良時や、身体・精神面の変化への迅速な対応
- ・ 心身機能の維持と生活意欲の向上のため、評価の出来るプログラムを提案し、自ら選んだものについて支援します

《行動目標》

「笑顔で安心して生き生きと暮らせる生活を送ろう」